

営農指導員成果発表大会を開催

J Aグループ和歌山農業振興センター



営農指導員成果発表大会を開催しました！

当センターは8月5日に営農指導員による成果発表大会をJ Aビルで開催しました。県内7 J Aから推薦された営農指導員7名がそれぞれの地域での営農指導の内容や成果を発表し、大会には48名が出席しました。

この大会は営農指導機能の強化と営農指導員の更なる資質向上を目的として2016年度から毎年開催しています。

発表内容は県関係者やJ A役員ら7名が選考委員として審査し、最優秀賞にはJ A紀州御坊営農センターの湯川美佐氏、優秀賞にはJ Aわかやま中里成吾氏、J Aありだ尾崎有佑氏の2名が選ばれました。

最優秀賞を受賞された湯川氏には、令和6年12月3日に開催される2024年近畿地区J A営農指導担当者研修会(近畿地区J A中央会主催)で本県代表として発表頂きます。

～受賞者一覧～

最優秀賞：湯川美佐氏（J A紀州）

優秀賞：中里成吾氏（J Aわかやま）、尾崎有佑氏（J Aありだ）

努力賞：菊池佑磨氏（J Aながみね）、吉田真理子氏（J A紀の里）、
森晴紀氏（J A紀北かわかみ）、田中大介氏（J A紀南）



【最優秀賞を受賞した湯川氏（前列中央）】

最優秀賞 JA紀州 湯川美佐氏

「業務の見直しと‘JA紀州ピーマン’産地の振興について」

最優秀賞の湯川氏は、「業務の見直しと‘JA紀州ピーマン’産地の振興について」と題して発表されました。湯川氏は、防除履歴確認のための営農システムの運用を改善することにより指導時間を確保し、ピーマン部会の農業振興の強化や栽培面での課題解決に取り組みました。ハウスピーマン栽培において省エネ対策（放熱フィンの設置やヒートポンプ等）を導入することで施設内の保温に必要な燃油使用量の削減し、農家所得の向上を実現しました。また、問題となっている薬剤抵抗性が高まったタバココナジラミやアザミウマ類に対し、土着天敵を利用した難防除害虫対策に取り組みました。天敵による防除は、農薬散布回数の減少による化学農薬使用量の低減や省力化が期待でき、みどりの食料システム戦略の実現にも貢献します。

優秀賞 JAわかやま 中里成吾氏

「白菜の安定生産と持続的発展に向けて」

優秀賞の中里氏は、「白菜の安定生産と持続的発展に向けて」と題して発表されました。品質の高さから京阪神市場を中心に高い評価を得ているJAわかやまで生産される白菜は、根こぶ病による減収が課題となっており、その課題に対して、強耐性品種の導入や資材による菌密度の低下、土作りによる地力の回復といった栽培対策に取り組みました。また、栽培面積の維持・拡大を目的にJA独自の補助事業による種苗費の負担軽減や省力化機器の導入支援にも取り組みました。その結果、栽培面積が増加し、根こぶ病による影響が抑えられ、生産性が安定したことで、生産者所得の向上にも繋がりました。

優秀賞 JAありだ 尾崎有佑氏 「持続可能な温州ミカンの産地

形成を目指して【振興品種ゆら早生の取組み】」

同じく優秀賞の尾崎氏は、「持続可能な温州ミカンの産地形成を目指して【振興品種ゆら早生の取組み】」と題して発表されました。食味が良い極早生優良品種の「ゆら早生」は、全国的に栽培面積が増えたことで、他産地より高品質な果実が求められるようになりました。その中で、「もっと美味しい赤いゆら早生」を消費者に届けると同時に、生産者所得の向上に繋がる取組みとして、個性化商品の新規格「ゆら特選【ゆらHQ】」を設定しました。また、摘果果実の受け皿を設けた上で、【ゆらHQ】の出荷量を増やすための着色向上対策として、樹上選別を促進しました。その結果、販売単価の上昇に加え、加工柑も通常より高く取り扱うことができ、生産者所得の向上に繋がりました。

